

論壇

ネット利用格差で分断

デジタル技術が進む一方で、高齢者がその対応に戸惑っていることについてどう考えたらよいのか。時々、このような質問をいただくことがある。インターネットやスマホでいろいろなサービスが提供されるようになると、デジタル技術の利用に抵抗がない人にはますます便利な社会になるが、スマホやインターネットの苦手な人にはますます住みにくい社会になる。デジタル技術が社会を分断するこうした現象をデジタルデバインド(デジタルによる分断)と呼ぶ。デジタルデバインドは年齢差によ

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

ってだけ起きるわけではない。若い人でもインターネットが使えず社会の流れに遅れる人もいるだろうし、年配の人でもデジタル情報のサービスを積極的に利用している人も少なくない。ただ、一般的な傾向としては高齢者の方がデジタル社会の流れに取り残されることが多い。

ただ、可能であれば、より多くの人により快適にデジタル機器を利用してもらうことが必要だろう。

この老夫婦は、ショッピングは大半をネット利用していた。90歳近い高齢者にとって店まで買い物に行くのは不可能に近い。彼らにとってはインターネットが生命線であった。デジタル技術が利用可能でなければ、この老夫婦はどうしたのだろうか。2人だけで可能な限り生活したいというライフスタイルを貫徹することはできなかっただろう。

仕事を離れると世の中の情報が入ってくる。遠くにいる子供や孫と会話をすることが難しくなる。重い荷物を持ちたり、遠くまで出かけて買い物に行ったりするのが困難になってくる。こうした不自由を諦めてしまえば、それだけ生活の質も低下してしまう。しかし、スマホを利用すれば、さまざまな情報をネット上で取ったりSNSで多くの人と意見交換したりできる。スマホで、重いものも取り寄せることができる。いろいろな買い物もネット上で済む。デジタル情報の利用にはそれなりの努力はいるが、使ってみれば本当に便利だということを実感するはずだ。周囲の人も、高齢者のそうしたデジタル化を支援してほしいものだ。

デジタルデバインドへの対応

デジタルデバインドには二つの対応がある。両方とも必要だろう。一つは、デジタルが苦手な人に支援をしてデジタルを利用する能力を高めてもらうということ。そしてもう一つは、デジタル技術を使わなくてもある程度の生活が維持できるような支援をするということ。

米国などでは、日本より高齢者によるデジタル利用が進んでいる。私の知り合いである米国の高齢者のご夫妻は90歳近くになるまで、スマホを利用してパソコン画面上で遠くにいる子供や孫たちと毎週のように会話していた。コロナ禍が始まる5年以上も前のことであ

る。時間に余裕がある高齢者にとっては、孫と遠距離でも会話ができるためなら、何時間もかけてそのための準備をする。そのための支援の制度も充実している。

年齢を重ねていくと生活のさまざまな面で不自由になってくる。

生活上へ高齢者支援

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。